# 千秀だより

横浜市立千秀小学校

１２月号

平成３０年（２０１８）１２月３日


## 身の回りの人権課題に取り組む

校長　市　川　幸　男

台風による塩害にも負けず、残った校庭の木々の葉が、その色を染め、晩秋のたたずまいを漂わせております。特にバス道路横にあるイチョウの木では、葉の黄色と、落ちていく夕日のオレンジが重なり、息をのむような美しさを醸し出しております。毎年、この光景を校長室から眺め一人悦に入るとともに、心の中に同時に今年も終わりに近づいたなという感慨が沸いてまいります。１２月（師走）となりました。平成３０年も残り１月です。これから年の瀬に向けて、日々寒さも増し厳しい季節となりますが、子どもたちは１２月８日に開かれる千秀学習フェスティバルを控え、大張り切りです。自分たちの学習の成果を題材に、保護者・地域の皆様との交流を楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、先週・今週と２週にわたり、朝会で人権尊重にかかわるお話をさせていただきました。というのも千秀小学校では今月３日より～１４日までを、人権尊重について考える期間としているからであります。人権意識の育成については、この期間に限らず、年間を通して取り組んでいるところですが、特に期間を設けていることで、日常の自分の生活や行動、考え方を振り返り、あらためてその意識を高めていってほしいと願っています。とかく人権意識の育成というと、男女差別や職業差別、肌の色など大上段な内容となりがちですが、実は子どもたちの日常にも、多くの差別や偏見の芽となるところが存在します。

こんな話があります。学級でグループを作る必要があり、先生が「どうやってグループを作りますか」と問いかけます。すると子どもから「好きな人同士がいい」と意見が出て、「気兼ねなく話ができてよい」というように幾人かの賛成意見が続きます。千秀小学校ではあまり見られませんが、学校によっては今でも時として見られる光景です。例えば体育の学習でのグループ分けなどでは出ないのですが、年度も深まった遠足や校外学習などの折には、なぜか出てまいります。これが私的な旅行であるならば、そんなに問題とはならないのでしょうが、集団で生活をし、小さな社会を営む学級では、「いいですよ」というわけにはまいりません。「好きな人同士」という言葉の裏には、「好きではない人」がいる、そして好きではない人を排除するという論理に結びつきます。結果、すぐにできるグループがある一方、自分の思いとそぐわないグループになり、我慢をする子も出てまいります。時には、どこのグループにも入れない子が出るといった最悪の展開になることもあります。百歩譲って人の心の中のことですから、好き・好きでないという情意があることは認めます。でも、その思いを集団で生活している中で出すということの是非を考え、所属する仲間への思いやりを働かせ、判断をしていくことができる、それが人権尊重の意識だと思います。例に挙げた事例に限らず、「バカ」とか「ウザい」といった人を傷つける言葉など、子どもたちの生活の周りには、多くの課題に結びつくものがございます。それは子どもたちだけでなく、私たち大人の生活においても同様です。この人権学習の取り組みを機会として、さらに日常を見つめ直し、子どもたちと共に学んでいきたいと存じます。

今月はフェスティバルの代休を２５日とする関係で、２２日より冬休みとなります。１月６日までの１６日間、ご家庭に子どもたちが帰りますが、せっかくの機会です、家庭の中で年越しの役割を果たしていくような体験をさせていただき、子どもの家族意識を高めていただければと思います。よろしくお願いいたします。